

## 今年度の予定及び方向性～状況に応じ柔軟に前進～

感染症対策に翻弄されながら始まった令和2年度。総会を開催することができませんでした。去る5月7日(木)に感染症対策規模で理事会を開催しました。理事会で話題にした当面の予定及び今年度の方向性についてお知らせしたいと思います(例年、総会で配布させていただく資料は、データ配布及び教育会ホームページに掲載という形をとらせていただきます)。

### 各種行事・研修会の予定

6月27日(土)開催予定の「上伊那教育会特別支援教育研究会 総会・研修会」：中止  
2回目：11月21日(土)から実施の予定

7月25日(土)開催予定の「上伊那圏域連携サポート会議(サマースクール)」：中止

8月3日(月)開催予定の「長野県教組上伊那支部障がい児教育部 施設見学」：中止

10月7日(水)教育課程研究協議会 会場校：箕輪中部小学校 ※実施については未定

11月20日(金)～24日(火)「なかよし作品展」いなっせ2F  
「南信地区K-A-B-C事例検討会」：当面中止  
「小さな学習会」：当面中止  
上伊那生協病院主催「小児学習会」：当面中止  
中央病院主催「高山恵子先生講演会」：無期限延期  
「上伊那圏域発達障がい診療連絡会 講演会・症例検討会」：検討中  
※5月末の状況です。見通しがもてた所で計画が具体化されていくと思われま

### 今年度の方向性 3本の矢

かみとくれん事務局は、つながって現状と課題を把握し表面化(共通の認識をもっていただく)させることだと思っています。できることは、そこまでであり現状と課題を解決できる方々(立場)のご助力によって前進していくものだと思います。今年度もよろしく願います。

#### 壹の矢：サテライト化の推進

今年度の組織編成で最大の特徴は『かみとくれん校長会』の設定です。北部・中部・南部それぞれに代表校長を設定していただきました。広い圏域の状況をより多くの校長先生に理解していただくとともに、地区ごとの取り組みを強化できるようにしました。また、巡回相談が事務局を行うことで現場のニーズを捉えやすくしました。

#### 貳の矢：持続性のある体制づくり

連携して事に当たる・・・今では主流となる取り組みではありますが、かみとくれんでの取り組みは、まだ各々の心意気によって支えられている状態です。かみとくれんの取り組みをより大勢の方々、様々な立場の方々に理解していただき、各所で公務の一環として連携用務にあたるようになることを切に祈ります。用務として、勤務として位置づき、次世代の育成を意識していくことで「連携して」の取り組みに持続性をもたせることになると考えています。

#### 参の矢：特別支援学校のセンター的機能の強化(かみとくれん本会機能との融合)

昨年度まで2カ所にあった本会事務局を伊那養護学校内に一本化し、特別支援学校のセンター的機能の一環として『かみとくれん』を運営していかれるようにしていきます。日常の用務とかみとくれん用務の関連性を意識した組織に改編していくことで、よりスムーズに活動していかれるようにしていくことが、前述の「持続性のある体制づくり」にもつながるものと考えています。

本会事務局 伊那養護学校 塩入 健

### 圏域情報

上伊那圏域地域自立支援協議会の療育等連絡会では、昨年度より、市町村の母子保健担当、障がい福祉担当、教育委員会、市町村代表の特別支援教育コーディネーター、発達診療を行っている医療機関などの方々と、上伊那8市町村の0歳から18歳における発達支援体制について信州大学医学部の本田秀夫先生に協力いただき、地域の分析を進めてきました。今年度も継続して検討を行っていく予定です。昨年度検討した中で複数の市町村に共通して見えてきている課題として、

- ①未満児保育の段階から早めの支援体制やフォロー体制の必要性が出てきていること
- ②情報連携に関しての仕組みづくりが必要であること
- ③発達支援体制について広い年代と多様な部署・職種で検討・協議をする場(協議会・連携会議等)が必要であること
- ④作業療法士、理学療法士、言語療法士、心理士などといった専門職の市町村の枠を超えた確保と、効果的な活用方法の検討の必要性
- ⑤義務教育終了後の子どもについて、市町村との支援のつながりが薄いこと
- ⑥医療機関へのつながりの方法が明確になっていない部分があること等が見えてきています。

今年度の活動としては⑤と⑥の二点について、かみとくれんと協力をして検討を進めていく予定です。関係機関の皆様におかれましては引き続きご協力をお願いいたします。

文責：療育等連絡会事務局 上伊那圏域発達障がいサポート・マネージャー 松田佳大